

2021年8月2日

東日本旅客鉄道株式会社

JR 東京総合病院の病棟等の建替えについて

JR 東京総合病院の病棟は、1980 年の建設から 40 年以上経過し、建物、設備の老朽化が進んできたため建替えを行います。あわせて、人間ドックセンターおよび JR 東京総合病院高等看護学園が入る健康管理棟（仮称）を新設いたします。

これを機に、新型コロナウイルス感染症等感染症対策の強化、自然換気の導入等による病室の療養環境向上、救急医療の拡充、災害対応の強化、人間ドックの拡充等、病院のさまざまな機能を向上させることで、地域のみなさまにより質の高い医療サービスを提供し、人生 100 年時代の社会に貢献してまいります。

なお、健康管理棟（仮称）は 2024 年春頃、新病棟（入院棟）は 2025 年春頃にオープン予定です。



外観イメージ（鳥瞰図）

1 主な特徴

- (1) 感染症対策の強化 陰圧病室の拡充、救急外来から病室への動線分離可能なレイアウト等により、感染症発生時の機動的な運用を可能にします。(図1参照)
- (2) 病室の療養環境の向上 自然光を活かした採光や部屋ごとの自然換気の導入等により、患者さまがより安心して治療を受けられる環境を整えます。(図2参照)
- (3) 救急医療の拡充 救急診療に関するスペースや検査機器を拡充し、よりスムーズな救急受入れを実現します。
- (4) 人間ドックの拡充 人間ドックにかかわる機能を集約するとともに、より高精度の放射線・消化管等の検査機器を導入し、職域病院としての機能向上も図ります。
- (5) 中庭の設置・災害対応の強化 緑豊かな中庭を設置し、ご利用のみなさまの憩いの場にするほか、災害時には中庭下の駐車場をトリアージ等のスペースとして転用可能とします。
- (6) 環境への配慮 外壁や高断熱仕様のガラスによる病室への日射を抑制し空調負荷を低減、照明のLED化等によるエネルギー効率の向上を図り、環境負荷の低減を図ります。

図1 感染症患者対応病棟のイメージ

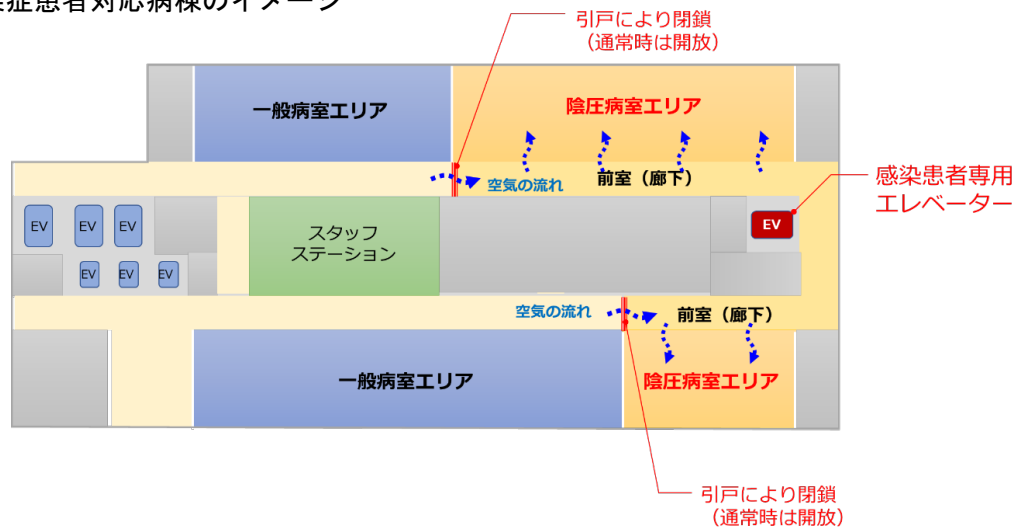
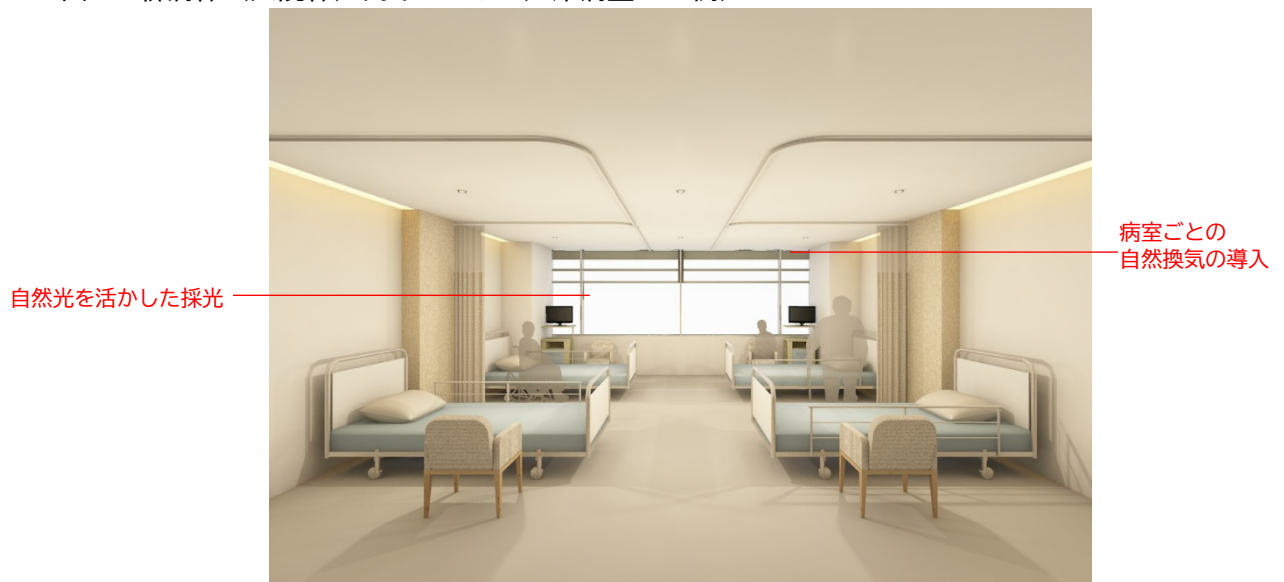


図2 新病棟（入院棟）内イメージ（4床病室の一例）



2 建替え計画の概要

事業主体	東日本旅客鉄道株式会社
予定地	現JR東京総合病院敷地内 東京都渋谷区代々木2-1-3
病床数	401床
延床面積・階数	全体延床面積：約61,600㎡、全体建築面積：約9,500㎡ 新病棟（入院棟） 延床面積 約33,500㎡ 地上16階 地下2階 健康管理棟 ^{（仮称）} 延床面積 約9,600㎡ 地上7階 地下2階 外来棟（既存） 延床面積 約18,000㎡ 地上7階 地下3階
主な施設	新病棟（入院棟） 総合受付・救急外来・病棟 健康管理棟 ^{（仮称）} 人間ドックセンター・JR東京総合病院高等看護学園 外来棟（既存） 外来診療・手術室・カフェスペース
設計	（株）久米設計 （株）竹中工務店
施工	（株）竹中工務店
工期	新病棟（入院棟） 2022年春本体工事着手（2025年春頃オープン予定） 健康管理棟 ^{（仮称）} 2022年春本体工事着手（2024年春頃オープン予定）

※外来棟については建替え計画の対象外です

※画像や図は現時点のイメージであり、今後変更になることがあります